

声をヨメバズに泣きました

高知 四年 まなぶ

おととい、大阪からお父さんが帰ってきました。ぼくは、そのときから、また、お父さんが仕事で大阪に行くことがこわいと思いました。

お父さんが、大阪に行く前の日にお兄ちゃんが、

「明日、お父さん帰るがで。」

と言いました。ぼくは、ずっといっしょにいたいのにと思いました。

最後の日にカラオケに行きました。でも、お母さんは病院の仕事でいなかったの、弟とお兄ちゃんとぼくとお父さんで行きました。カラオケは大きい声で歌いましたが、歌っているときになみだが出そうになりました。

次の日、お父さんが車で帰るとき、お母さんがお父さんにお弁当を渡しました。ぼくが、お父さんに、

「夏休みに遊びに行くき待ちよってよ。」

と言うと、

「うん。ずっと待ちよるきね。仕事も頑張るきね。」

と言いました。

ぼくは、悲しかったけれど笑ってあく手して、

「ばいばい。」

と言って、手をふって別れました。

その夜、ぼくはふとんの中で声を出さずに泣きました。



(指導 細川幹夫)